

# わかば会誌

第14号

2020.6

## 巻頭言

## 院長就任のご挨拶

河北中央病院 瀧崎 宇一郎



このたび、令和2年4月1日より河北中央病院の院長を拝命いたしました瀧崎宇一郎と申します。巻頭言の執筆という大変恐れ多い機会を賜り誠にありがとうございます。この場をお借りして簡単な自己紹介と抱負を述べさせていただきます。

前任地の恵寿総合病院では消化器内科医として21年間勤務しました。能登地域は特に高齢化率が高く、胃癌や大腸癌に加えて、加齢に伴い罹患率が上昇するとされる総胆管結石症例が多いことや、原因は不詳ですが胆管・膵痛症例が多いことから、内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）関連手技・治療は多数の症例を経験しました。高齢者の総胆管結石症に対する内視鏡的治療に関して、JDDW 2012、第100回日本消化器病学会総会および第89回日本消化器内視鏡学会総会において発表し、ERCP関連手技を安全に行うためのマネジメントについて学会専門医セミナーで報告しました。昨年12月には「ERCP関連手技の工夫とトラブルシューティング」を主題として、日本消化器内視鏡学会北陸支部例会を開催させていただきました。今年度より当院でも内視鏡的粘膜下層剥離術やERCP関連治療を導入したいと考えています。

着任早々、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の感染拡大に伴い緊急事態宣言が発令される事態となり、その対応に追われました。帰国者・接触者外来、ドライブスルー外来の設置ならびにCOVID-19陽性患者の受け入れを行い、地域の皆様の安全・安心を確保するため職員一丸となって感染予防に努めています。現在、緊急事態宣言は解除されたものの第2波・第3波の可能性に常に備える必

要があり長期戦を覚悟しています。

さて、当院では「地域に密着した医療を提供し、安心して暮らせるまちづくりに貢献します。」を理念として掲げ、その実践に取り組んでいます。寺崎修一前院長のご指導により院内では多職種協働を推進し、周辺の拠点病院・河北郡市医師会の先生方と「河北中央医療連携の会」を立ち上げて非常に密接な関係が構築されています。そのような中、厚生労働省による地域医療構想の実現に向けた再編・統合病院として議論の俎上に載ることとなりました。高齢化が進む当地区において当院がなくてはならない存在であることは言うまでもありませんが、これまで以上に役割の明確化や経営の健全化が求められています。今後も地域の皆様から信頼され選ばれる病院として存続していくためには、まずは職員にとってやりがいのある魅力的な職場でなければ到底維持していくことはできません。現在、全部署の職員からヒアリングを行い、情報収集と課題の抽出を行っています。モチベーションを高められるような新たな取り組みや働きやすい環境の整備をしていきたいと考えています。

COVID-19感染拡大による影響はあまりに大きく先の見通しが立てられない厳しい状況ですが、これからも当地区における地域包括ケアシステムの中核として、質の高い医療・介護・生活支援を提供することにより、切れ目のない地域完結型医療を行うべく精一杯努めてまいります。河北郡市医師会の先生方におかれましてはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 理事就任のご挨拶

紺谷医院 紺谷浩一郎



令和2年6月より河北都市医師会の理事という大任を務める事となりました紺谷浩一郎です。皆様方には日ごろより大変お世話になっております。

令和2年は昨年新元号に変わった清新な空気をそのままに東京オリンピックを待ち遠しく感じる勢いのある年になるだろうと非常に楽しみにしていましたが、年始早々より新型コロナウイルスが猛威を振るっています。東京オリンピックの延期決定に始まり3月末からは学校の休校や始業の延期などこれまでは想像もつかない状況を経て4月には緊急事態宣言もあり社会の混乱が続いています。石川県も新型コロナウイルスの猛威にさらされており、日本国内でも上位に挙げられる感染状況と苦戦しております。かほく市でも二ツ屋病院でのクラスター発生に伴いコロナ感染の最前線となり西村先生や当時会長の由雄先生、副会長の沖野先生（現会長）を先頭に日々緊張の中でコロナ感染の終息を目指して活動を続けています。そのような鉄火場の中での新体制の始動という事で非常に困難かつ繊細な活動が必要な状況に大きな戸惑いを感じている今日この頃です。

私は1998年4月に金沢大学附属病院の第一内科に入局しました。大学院には入らず実地臨床中心での研修を希望したため石川県、富山県の2次、3次救急病院を中心に勉強をさせていただきました。2017年4月に

それまで6年間を過ごした黒部市民病院での勤務を最後に、実家である紺谷医院に入って父と共に診療を開始するとともに、河北都市医師会の末席に加えていただきました。それからの3年間は慣れない開業医としての診療に加え初めて体験する様々な医師会活動に戸惑いつつ皆様の足を引っ張らないようにと少しでも追いつけるよう走ってきたように思います。今回、理事への就任を内示された際には、まだまだ解らないことばかりである事に不安を感じつつも、河北都市医師会の仕事を多少でも任せて頂けるという事に改めて気合を入れなおそうと気持ちを一新できました。ただ、当初の仕事としては学術担当という事で講演会の調整などを担当する予定でしたが現状コロナによる混乱のため無期限の仕事停止状態になってしまいました。さて、次の仕事はなんですか・・・。まだまだ不慣れで仕事も十分に理解できていない若輩者ですが現職、前任の方々に恥ずかしくないよう日々前進していきたいと思っておりますのでご指導のほどよろしく申し上げます。

## 新任教授紹介

### リハビリテーション医療とリウマチ診療

— 二足の草鞋をはいて —

金沢医科大学リハビリテーション医学科

特任教授 松下 功



はじめまして、2020年1月に金沢医科大学リハビリテーション医学科の教授を拝命しました松下功と申します。私は1987年に富山医科薬科大学（現富山大学）を卒業後、同大学整形外科に入局しました。2年間の研修生活を経て大学院に進学し、そこで関節炎のモデルマウスの研究を行い学位を取得しました。

大学院卒業後は富山赤十字病院にて一般整形外科と外傷学を学び、その後富山県高志リハビリテーション病院（現富山県リハビリテーション病院・子供支援センター）に赴任しました。ここでの診療経験により、今の私のリハビリテーション医学の基礎が作りあげられ、当時は取得が困難だったリハビリテーション科専門医の資格を取得するに至りました。

同病院にてリハビリテーション医学を継続する選択肢もありましたが、関節リウマチと関節外科に対してより踏み込んだ診療を行ってみたいという気持ちを抑えきれず、当時富山大学整形外科学教授でいらした木村先生のご配慮で2002年から富山大学整形外科にて仕事をすることとなりました。その翌年にはリハビリテーション部副部長に就任し、リウマチ学、関節外科、リハビリテーション医学の3つを担当しながらの船出となりました。

富山大学に赴任した翌年から、生物学的製剤が関節リウマチの治療舞台に出現し、診療は大きく変わりました。それに伴い関節リウマチの臨床研究がより活発に行われるようになってきた時代でした。私も関節

## 禍転じて福となす

金沢医科大学・小児外科主任教授 岡島 英明



河北郡市医師会の皆様、金沢医科大学・小児外科に河野美幸教授の後任で2020年4月1日より着任しております岡島英明でございます。

日々状況が変わるコロナ禍に翻弄されている中、ようやく非常事態宣言も緩和の方向に向かい、先が少し見え始めてきた、と期待したいところです。種々の予期せぬ対応に忙殺されておりますが、禍々しい出来事にも必ず終わりが来ます。また、雨降って地固まる、禍転じて福となす、とも申します。これを機に必要な迫られてだったとはいえ、北陸で手術を必要とするこどもたちに対して金沢医科大学、金沢大学、石川県立中央病院、福井県立病院、福井大学がタッグを組んで症例の相談を行い、それぞれの施設の状況に応じてカバーし合う体制をとってきました。こどもたちのみならず、われわれ外科医が臨機応変に他施設の診療もカバーできるように各施設と交渉し、出生体重が400gの未熟児の生後6日の穿孔性腹膜炎緊急手術に出向いたり、夜中の緊急手術が重なった際には手伝いに来ていただいたりと、症例のみならず外科医も他施設で手術を行うことができる体制を整え、対応してまいりました。こういったことが可能であったのも先代教授の河野美幸先生が北陸の小児外科を一つにとの思いで、毎年のように症例を通した北陸小児外科の会と称して夜遅くまで交流を続けてきたことの恩恵であります。お陰様でスムーズに治療方針などの価値観も共有

して診療を行うことができ、そして施設間連携の体制が充実しました。まさに禍転じて福となすです。

そして今後、コロナ禍が収束し、一般診療が可能となるときにはさらに各施設の特徴を生かし、5年後10年後を見据えて新しいこと、いいことはどんどん取り入れながら、同時に小児外科が魅力あるやりがいのある領域であることを次世代の先生に感じてもらい、若手を育成していきたいと考えています。小児消化器病の専門医、小児泌尿器科の専門医、小児がん認定外科医は現在北陸では金沢医科大学にしか在籍していません。しかしながらその専門的な高度医療を北陸全体に恩恵が受けられるよう多施設で協力し小児医療体制を改めて見つめ直し、河北郡市のこどもたちはもとより、全てのこどもたちにより安心して医療を受けていただけるよう邁進したいと存じます。

何分、今はまだ非日常であり、何も始まっていない状態でもあります。ひとりひとりのこどもたちを丁寧に見させていただくことがまず始めにすべきことであることは論を待ちません。河北郡市医師会の先生方におかれましては我々が少しでも浮き足だった様子が見受けられるようであれば叱責、叱咤頂きたいと存じます。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほど賜れば幸いです、よろしくお願い申し上げます。

リウマチの薬物治療、画像評価、手術療法などの臨床研究を行ってきました。また、リハビリテーション医学においては、関節リウマチに対するリハビリテーション医療を見直し、新時代に即応した運動療法と作業療法を推進し、その結果を学会等で報告してきました。現在、関節リウマチ診療ガイドライン2020の作成委員として、手術・リハビリテーションの項を担当し、解説文とエビデンステーブルの作成に追われている最中です。

当院に赴任してからは、関節疾患に限らず脳血管疾患、神経難病、心疾患、呼吸器疾患、がんなど様々なリハビリテーション医療を必要とする患者さんと向き合っています。病気で生じた身体機能・精神機能の「障害」を回復させ、ヒトの営みの基本である「活動」をもとの状態に近づけられるよう、「障害の克服と活動の賦活化」という視点から、全診療科を横断的にサポートしていけるよう全力で取り組んでいるところです。

一方、関節リウマチの診療については、毎週火曜日と木曜日のリハビリテーション医学科の外来日に、こ

れまでにご紹介いただいた関節リウマチ患者さんの診察を行っています。私の関節リウマチ治療のポリシーは、「関節破壊の進行阻止と長期のADL維持」です。そのためには、「早期診断と早期からの十分な薬物治療」を実践することが重要です。現在、疾患活動性が高い関節リウマチ患者さんに対しては生物学的製剤やJAK阻害薬なども積極的に使用しています。今後はリハビリテーション診療と関節リウマチ治療の“二足の草鞋”をはいて積極的に地域医療に貢献し、河北郡市医師会の先生方のお役に立てるよう努力していきたいと思っています。

最後になりますが、今回の寄稿の機会をいただきましたことを河北郡市医師会の皆様に感謝させていただきます。そして、コロナ感染が十分に収束せず医療に携わる皆さまが日々たいへんな苦勞をされている今、医師会の諸先生方と病院スタッフの皆様がご健康で無事に診療が続けられますことを心からお祈り申し上げ、稿を終えさせていただきます。

## 開業にあたり

### あがた内科クリニック 浅地 孝能



この度、津幡町御門の地で開業させていただきます  
浅地孝能と申します。

私は1980年3月に防衛医科大学校を卒業し、付属病院等での2年間の研修を経て航空自衛隊小松基地衛生隊に赴任。1984年4月に金沢医科大学循環器内科に入局しました。前理事長の竹越襄先生、故村上映二先生、故松井忍先生をはじめ同門の多くの先生方に、循環器病学、特に心不全の診療を中心に学びました。その傍ら、カナダから帰国された血小板Cキナーゼリン酸化蛋白研究の第一人者の今岡禎治先生に生化学的研究の指導を受けました。2010年以降は生活習慣病センターや健康管理センターで主に予防医学の業務に従事しました。

大学在任時、患者様の紹介、逆紹介を通じて非常に多くの先生方に大変お世話になりましたが、特に河北郡市の山崎軍治先生、北谷秀樹先生、前医師会長由雄裕之先生、同門先輩の角田弘一先生にはたくさんのご厚情とご指導を賜りましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、津幡町はとても歴史深い町です。私は歴史好きでしばしば京都に出かけます。大学生の頃には禅の道にも心惹かれ、東京の禅寺で座禅に勤めました。津幡町御門の地は小倉百人一首の歌人であられる順徳天皇（御陵は京都の大原三千院のそば）ゆかりの場所と言われます。学童期興じた百人一首の「もしきや古き軒端のしのぶにもなほあまりある昔なりけり」の一句がふと思い出されます。また、この津幡には峨山禅師生誕の地があり、診療の傍ら歴史散策ができればと思っています。

高齢化社会となり、“健康長寿”が謳われていますが、生活習慣病の罹患率が高く、開業後はそういった患者様を中心に診療を行なわせていただき、「Support for your healthcare」を目標に、多くの患者様の健康増進、健康管理にお役に立ちたいと願っております。河北郡市医師会の諸先生方のさらなるご指導ご鞭撻を賜れば幸甚です。

## 河北郡市医師会の主な行事

(令和2年1月～令和2年の6月末まで)

### 1. 理事会・総会

令和2年	1月15日(水)	第10回理事会
令和2年	1月18日(土)	令和元年度新年総会「勝崎館」
令和2年	2月19日(水)	第11回理事会 中止
令和2年	3月18日(水)	第12回理事会 中止
令和2年	4月15日(水)	第1回理事会 中止
令和2年	6月4日(木)	第2回理事会
令和2年	6月6日(土)	令和2年度定時総会 津幡町文化会館
令和2年	6月17日(水)	第3回理事会

## 編集後記

COVID-19によって世界は一変してしまいました。これが疫病なのだと思います。会員の皆様も大変な思いをされてお過ごしのことと思います。その、緊急事態にも拘わらず、また、ご多用の中、多くの先生方からご寄稿を戴き大変ありがたく思っております。河北中央病院院長に新たに着任された淵崎先生からはまさにCOVID-19に実際進めておられる対策を述べていただきました。新理事の紺谷浩一郎先生のお写真からは日常診療の緊迫感が見て取れます。金沢医科大学小児外科主任教授

に就任された岡島先生には河北郡市はもとより、北陸全体に高度な小児医療を広めたいという熱意を述べていただきました。同じく金沢医科大学リハビリテーション医学科特任教授に就任された松下功先生にはリハビリテーション医学だけでなく関節リウマチへも関わっていく決意を感じました。また、あがた内科クリニックを開業された浅地先生には、地域に溶け込んで「Support for your healthcare」を目指していかれる旨、ご寄稿戴きました。

会誌編集委員 石倉 直敬 紺井 一郎  
沖野 惣一 藤田 拓也  
木嶋 保 金原 拓郎